

エビデンスを伝える手段と課題

NPO法人日本臨床研究支援ユニット・がん電話情報センター (CTIS) 相談主任
NPO法人血液情報広場・つばさ 理事長 橋本明子

がん電話情報センター(CTIS)

相談員
・研修3か月間
・オペレーション・マニュアル

対外
・ブラッシュアップセミナー
・患者向けセミナー支援



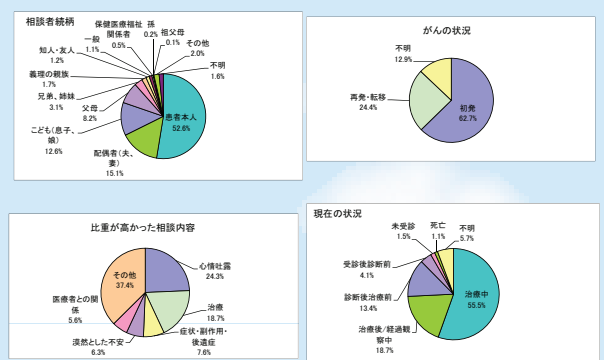
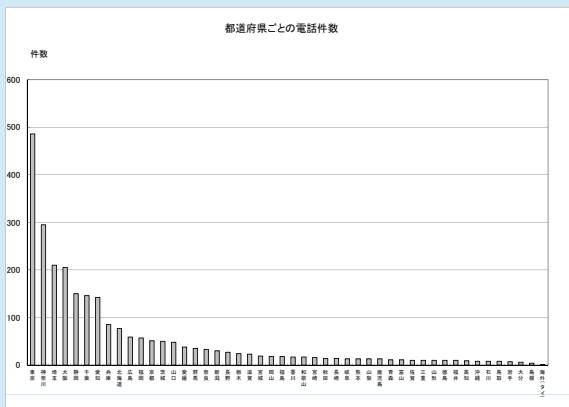
CTISがめざすのは

医師と患者が**情報**を共有するための、整理の支援

- 第一次情報 患者の病気の状況(患者の中)
- 第二次情報 **標準的な治療の方向(医師の中)**
- 第三次情報 患者が置かれている境遇・人生観

患者は、医療の中で唯一の素人

- 暮らしの中の闘病生活を支援する
担当医の説明と、患者さんの置かれている「いま」を相談者から十分に聴き取る(語りきってもらう)ことで、より適切な治療と闘病を受け容れていけるように支援する



CTISがめざすもの(心得)

- よりよい闘病を支えます
 - 非営利の中立的な市民活動の目線から、匿名性を尊重します
 - 主治医や周囲の人々との関係が良好になるように支援します
- 正しい情報を伝えます
 - 医学的な判断や良し悪しの評価はしません
 - 科学的根拠のある信頼できる情報を提供します
- その人らしさを尊重します
 - 相談員の個人的な立場、好み、信条は 伝えません
 - 相談者の不安やさまざまな思いを引き受け、ご本人の中にある答えを見つけるお手伝いをします

CTISが遵守すべきこと

- センター内で承認された情報(科学的根拠のある情報: 診療ガイドライン、がん情報サービス、センター内で保有している情報 ほか)を提供する
- 情報を伝えるときに、免責事項(情報の特徴・限界)、出典、有用性についての根拠を伝える
- 医学的な判断を行わない
- 主治医と相談者との関係を妨げるような発言をしない
- 相談員の個人的な立場、好み、信条、意見を伝えない
- 相談者の匿名性を尊重し、個人情報適切に扱うとともに必要なことのみ話す
- 相談員の個人情報を伝えない
- 次回の電話を促すような言葉かけを行う

CTISの関心事と情報収集の方法

電話口の相談者に訊くのは

- 相談のニーズ
- いま、置かれている状況

患者・家族を取り巻く状況

- 医療、とりわけ、がん医療は、どこに向かおうとしているのか
- がん対策、国の福祉・社会保障制度はどこに向かおうとしているのか
- 社会の関心は、どこに向かおうとしているのか

<資料>

- 診療ガイドライン・各種ガイドライン、規約、マニュアル類 70冊
- 薬剤添付文書、インタビューフォーム、調査・研究報告記事 250種
- 新聞(一般4紙、業界1紙)、メーリングリスト(3種)の記事 5,000件
- がん対策の基本計画・議事録、がん登録の報告書
- 各種サイトのURL 1,500件
- 患者向け説明冊子 500種
- 書籍 200冊
- 医療雑誌 月刊4誌
- がん関連のテレビ番組、映像 150本
- 各種団体の通信・パンフレット
- 医療者の講演・発表(学会、外部セミナー、医療フォーラム)

科学的根拠
のある情報を含め、すべて
一般に公開されている情報

エビデンスを伝える手段と課題

NPO法人 血液情報広場・つばさ /
NPO法人JCRSU・がん電話情報センター CTIS 橋本明子